

自分の選択肢を信じたい、すべての高校生へ

キイ・パーソン *kii person*



高校生に伝えたい
御浜町で見つけた
7つのヒント

自分の選択肢を 信じたい、 すべての高校生へ。

地元を選ぶ。都会を選ぶ。就職を選ぶ。進学を選ぶ。実家を選ぶ。一人暮らしを選ぶ。かわいい人を選ぶ。やさしい人を選ぶ。どれも、みんな、どうやって、決めるんだろう。

「キイ・パーソン」は、きみに向けた本です。地元の大人たちが見つけたヒント、たくさん集めました。

もくじ

- p3** ヒント1 「はたらくキッカケは、自分に眠ってる」
おろし複合施設 つどい
- p8** ヒント2 「たまには大人げない大人でいい」
尾呂志学園小・中学校
- p12** ヒント3 「やりたいことは、全部やっちゃえ」
紀伊自動車学校
- p14** ヒント4 「思いがけない仕事に就いてみたら」
下川建築板金
- p18** ヒント5 「地元舞台に、世界へダイブ！」
株式会社 かきうち農園
- p22** ヒント6 「作れるって、うれしいこと」
湊石材店
- p25** ヒント7 「きみの地元で暮らしたい」
指導農業士
- p29** おわりに



ヒント1

はたらくキッカケは、
自分に眠ってる

Kii Person

いの うえ せい や
介護員 **井上聖也さん**
特定非営利活動法人 つどい

Q.1 この仕事に就いたきっかけは？

「小3で脳こうそくになったこと。それから両親の背中」

過去の経験が、今の仕事につながる。

井上さんは、現在18歳。紀南高校を卒業して、介護員の仕事を選びました。なぜこの仕事に就いたのですか？

「ぼくは小学校3年生で、脳こうそくになりました。手術、そしてリハビリ。お医者さんと看護師さんを始め、病院ではたらく方々にたくさん助けてもらったんです。やがて高校生になり、進路を考えたとき『今度は、ぼくが人の力になりたい』と思いました。それで福祉の仕事を考えるようになったんです。最初は、言語聴覚士が夢でした。でも、いざ卒業を目の前にしたとき、自分のじいちゃんばあちゃんを思い出して、いつか家族の力になる仕事がしたくて、介護の道に進みました」

決め手は、身近な大人の姿。

大学を卒業してから介護士になる選択肢もあります。どうして、就職を決めたんですか？

「そこは、両親の背中が大きいです。2人とも、毎日すごく楽しそうに仕事をしていました。その姿を見て、ぼくも早くはたらくたくなり、就職の道を選びました」

知識も経験ゼロ。でも現場が一番の教科書。

知識も技術もゼロの状態、福祉の世界に飛び込んだ井上さん。不安はなかったのでしょうか？

「現場で学ぶことが多いんです。たとえば、一人での移動が難しい利用者さんをお風呂場へ案内するとき。体のどこを抱えて支えたら、相手に不快感がなく自分もラクか。やりながら感覚をつかんでいきます」

たしかに。逆上がりだって、どれだけ細やかに説明書があっても、鉄棒にぎって、いざ足を蹴り上げないとわかんないもんなあ。

知らない世界こそチャンス！

では、どうやって仕事を覚えていますか？

「1年目の今は、すべてが初経験。一つ一つ先輩に教わる毎日です。まずは、先輩の仕事を、横についてじっと見ます。次に、ぼくが一人で行ってみるのを先輩に見守ってもらいます。その上で、先輩からアドバイスをもらいます」

やってみることは、大事なんですね。

井上さんの仕事を、もう少し追いかけてみました！

食事の盛りつけ方一つで、人を元気にできる？

この日の井上さんの仕事は、「配食」。つどいで調理した昼食を、利用者さんのお宅に届けます。

「山口さんこんにちはー！ご飯お持ちしましたよ！」井上さんの元気なあいさつが、家中に響きます。玄関でくつを脱ぎ、台所へ上がる井上さん。保温式の弁当箱を開けると、いいにおい！

「山口さん、今日はシイラのフライですよ。おいしそう」井上さんは、食器棚から取り出した器へ、移しかえていきます。料理の盛りつけ方には、特別なコツがあるのでしょうか？

「どうやったら食欲がわくような、きれいな盛りつけができるかと気を配ります」

利用者さんの心に響くおもてなしをしながら、健康を守る仕事なんですね。

「食事の様子からも、その方の体調が見えるんです。食べ残しがあった日は、体調を崩していないかな？と考えます」



井上さんがはたらく、「おろし複合福祉施設つどい」について

まちの声から生まれたつどい。

2012年にオープンしたつどい。誕生のきっかけは、住民の声でした。町内でもっとも高齢者が増え、子どもが少ない尾呂志地区。高齢者の方は、大きな病気をすると病院や施設へ移らざるをえませんでした。8集落に暮らす約500人の将来を考えたとき、2つの思いが浮かびます。高齢者が、できるだけ長く自宅で生活できるようにしたい。そして、若者には生き生きとはたらいてほしい。両方を実現する場として、つどいが生まれました。

オーダーメイド的な仕事は、やりがいがある。

現在つどいでは、3タイプのサービスを行っています。利用者さんが施設へ通うデイサービスタイプ、施設で暮らす入居タイプ、利用者さんの自宅へうかがう「訪問介護」タイプ。一人一人の生活にできる限り応えられる、オーダーメイド的な介護を目指しました。

最後に、井上さんが配食にうかがったおばあちゃんを紹介したいと思います。お名前は、山口さん。このまちで衣料品店を営んできた方です。夫婦ともに90歳を越え、認知症も進む中、毎日台所に立つことが難しくなりました。「ここで暮らしたい」という山口さんの思いを叶えるため、井上さんの仕事は欠かせないものとなっています。



暮らしに欠かせない仕事がある。

最後に、井上さんが配食にうかがったおばあちゃんを紹介したいと思います。お名前は、山口さん。このまちで衣料品店を営んできた方です。夫婦ともに90歳を越え、認知症も進む中、毎日台所に立つことが難しくなりました。「ここで暮らしたい」という山口さんの思いを叶えるため、井上さんの仕事は欠かせないものとなっています。

ANOTHER STORY1

これも「介護」?! 井上さんの「上司」の1日。

ここで、つどいの所長も務める杭徳教さんの1日を追いかけてみました。

<p>9:00 利用者さんと一緒に洗たくものを干す</p> <p>主婦歴50年以上の利用者さんは、暮らしの先輩。洗濯物の干し方を教わります。</p> 	<p>10:00 尾呂志診療所での診察につきそう</p> <p>利用者さんの定期検診に同行。薬を減らす提案を、利用者さんと一緒に考えます。</p> 	<p>11:00 薬局で、薬と一緒に受け取る</p> <p>処方せんを持って、利用者さんと薬局へ。薬剤師さんとの立ち話は、貴重な意見交換です。</p> 
<p>12:00 カマを両手に利用者さん宅を訪問?!</p> <p>訪問介護の利用者さんのお宅へ。駐車場から自宅までの道のり、草刈りをします。</p> 	<p>13:00 「マムシが出たぞ」の声にかけよります</p> <p>訪問介護からの帰り道、声をかけられました。杭さん、住民にもしたわれているんですね。</p> 	<p>15:00 閉店する商店さんにお礼のあいさつ</p> <p>「このお店が、利用者さんの暮らしを支えてくれました。最後に、お礼を言いたくて」</p> 

はたらき続けて見えた、暮らしとのつながり。

施設を飛び出し、尾呂志を駆け回る杭さんに質問です。どうして、閉店する商店さんにあいさつをしたんですか？

「高齢になり、車の運転ができなくなった利用者さんがいます。近所に商店があるおかげで、買いものができたからです」

じゃあ、どうして道の草を刈っていたんですか？

「利用者さんが外出するとき、足をひっかけてケガをしないためです」

なるほど。杭さんの仕事は、利用者さんの暮らしを支えることなんですね。でも、最初からそう考えていたんですか？

「僕はもともと、家業の寿司屋ではたらいていました。転職直後は、入浴の手伝いや、食事提供だけが自分の仕事だと思っていました」

仕事を続けていくと、自分のしていることが何につながるのかが見えてきます。すると「これは自分の仕事」「これは知らない人の仕事」という境界線がどんどんにじんでいきます。杭さんの仕事も、はたらき続けることで、暮らしをつくる仕事となったのかもしれませんが。



くいとくのり
所長 杭徳教さん
特定非営利活動法人つどい

ANOTHER STORY2

「どのまちでも必要とされる仕事」があった。外で学び、まちに帰りはたらくという選択肢。

「一度はまちを出たけど、地元で暮らしたくて」そんな井上さんの“センパイ”の話。

井上さんの先輩にも話をうかがいました。熊野市出身の西さんは、どうして福祉の道に進んだのでしょうか。

「いずれ地元へ帰りがかったから。高校生のとき、地元でもはたらく仕事を探して、介護福祉士を知りました。大阪の専門学校で介護を学び、一度は大阪で就職しました」

2011年からつどいではたらく西さんには、介護福祉士と相談員という2つの肩書きがあります。相談員って、どんな仕事？

「利用者さんがつどいで過ごす上での、目標をつくる仕事です。一人一人の状態に合わせた計画書を立てて、ご家族に1日の様子を報告するまでが仕事です」

この日は、看護師の米津未奈さんと相談しながら、仕事をすすめる場面も。介護の仕事にも、専門性を兼ね備えた様々な仕事があり、協力しあい成り立っているんですね。



ところで西さん、環境が変われば仕事内容も変わるのでは？



相談員・介護員 西沙織さん
特定非営利活動法人つどい

「わたしの場合は、そこまで大きく変わらなかったです。一つ挙げると、お出かけする仕事が増えました。利用者さんたちと、ほぼ毎週ドライブに出ます。“道の駅 熊野・板屋九郎兵衛の里”へ買い物に、スーパーセンターオークワで外食したり、世界遺産の鬼ヶ城、花の窟神社でお参りしたり！」

今の日本は、世界一の超高齢社会。「これから人を必要とする仕事は？」という目線で進路を考えるのも、アリかもしれません。

取材先情報

特定非営利活動法人つどい

〒519-5322 三重県南牟婁郡御浜町上野 240-2

電話 05979-4-7200

WEB <http://npo-tsudoi.com/>



MEMO



ヒント2
たまには
大人げない大人でいい

Kii Person
わた たに たく や
中学校教諭 **綿谷拓哉**さん
尾呂志学園

Q.2 楽しく働くコツってありますか？
「まずは自分が本気で楽しむことかなあ！」

自分が本気で関わったら、相手と気持ちが通う。 長する機会をつくっているんですね。

尾呂志学園のグラウンドでは、中学校の体育の授業が行われていました。生徒に手本を見せようと、走り幅跳びをするのは、綿谷先生(31)。どうして、そんなに一生懸命なんですか？

「生徒に、去年の自分を超えてほしくて。まずは自分が全力で跳んでみせたんです」

大人げなくも見えてしまいそうですが、生徒から「先生、カッコわるい」と思われる心配はしませんか？

「大人が本気を見せることが、大切だと思います。間違えたら謝りますし、失敗も隠さずに見せます。そして、もう一度チャレンジしてみる。本気で向き合っていると、自然と生徒とも気持ち通います」

失敗も成功も、生徒と同じ目線で体験することで、彼らが成

今さえ良ければ全て良し、じゃなくて。

綿谷先生は中学校の体育の先生ですが、中学校の美術、小学校の体育も教えます。また、生徒会と卓球部の顧問も務めます。どうですか？

「ここは、少人数でアットホームな学校です。まちの人が見守ってくれるから、あたたかく居心地がよいはず。その反面、『もっと力を伸ばしたい!』という気持ちが芽生えにくい。社会へ出たら、仲間と一緒に高め合ったり、立ちはだかる壁と闘っていくことの連続です。この学校で、少しでもその力を身につけてほしい。そのために、僕ができることを考えた結果なんです」

綿谷さんの仕事を、もう少し追いかけてみました！

綿谷さんがはたらく、「尾呂志学園」の本気5選！

1 構想や設計を手がけたのは、まちの人！

学校をつくるのは、どんな人でしょう？国のおえらいさん？町長さん？会社の社長さん？尾呂志学園は、まちの人が考えた学校です。「どんな学校があるといいだろう？」という構想から、話し合いました。



2 職員室は、全面窓！できるだけみんなを見渡せるように。

校舎に入ると、ふつうの学校より明るく感じます。それもそのはず。尾呂志学園には、窓が多いんです。「子どもを見渡せるように」とまちの人が設計を考えました。



3

生徒がお米を作って売る?!

生徒たちは、「学校田」と呼ばれる田んぼで、お米を作ります。収穫したお米は、運動会でまちの人に販売。売上げは、卒業生への色紙・花代、中学校の陸上大会のドリンク、キャンプや遠足の一部…。生徒たちの活動費用となります。



4

まちの人が学校の先生に!

まちの人であれば、誰でも出入りできる尾呂志学園。校舎の一室で、編みものをするおばあちゃんたちがいました。実はみなさん、小学校の家庭科の先生なんです。



5

保護者から先生への愛もすごい。

「先生、よかったら」と、生徒のお母さんから差し入れ。自宅の庭で育てたさくらんぼです。先生たちも地区の人から愛されています。



MEMO

綿谷さんの仕事を、もう少し追いかけてみました！

写真で見る、綿谷先生の1日

ここで、綿谷先生の1日に密着！小中学校の体育の授業から、生徒会の相談役、はたまた卓球部顧問まで大忙し！
合間におむすびをほおぼりつつ、1日を全力疾走する姿を紹介します。

今日は、グラウンドで走り幅跳びです。でも生徒たち、あんまり気が乗らない様子…。そこで綿谷先生、自ら本気で跳んでみせました。



中学生の体育

体育館で鬼ごっこ！誰よりも本気で追いかけて、逃げ回り、思いきり転ぶ綿谷さんの姿がありました。



小学生の体育



生徒会活動

相談役として参加する綿谷先生。生徒たちを後ろから見守りつつ、ときに言葉をかけていきます。



卓球部

顧問である卓球部へ。担任も務める中学3年生たちが最後の大会に向けて猛練習。がんばって！！

MEMO

学校職員のみなさんが追いかけた、春夏秋冬

写真で見る、尾呂志学園の1年



取材先情報

御浜町立尾呂志学園小・中学校

〒519-5322 三重県南牟婁郡御浜町上野 535-5

電話 05979-4-1012

WEB <http://oroshigakuen.jimdofree.com/>





ヒント3
やりたいことは、
全部やっちゃえ

Kii Person

さき く ぼ たか おみ
崎久保孝臣さん
紀伊自動車学校

Q.3 今やっている仕事を、教えてください。

「教習指導員、みかん農家、居酒屋、それから寮父さん！」

4つの職業を持つはたらき方もある。

「職業は1つに絞るもの」だと思いませんか？そんなことはありません。崎久保さん(40)を紹介します。

「実家のみかん農家、兄が営む居酒屋の手伝い、自動車学校の寮管理人、そして自動車学校の教習指導員をしています」

どうして4つも仕事をするようになったんですか？

「もともと料理好きなんです。兄が営む居酒屋・是空(ぜくう)で、手伝いをしていました。その後、紀伊自動車学校の校長先生から『合宿免許をはじめるにあたり、料理のできる寮管理人を探して…』と、声をかけてもらったんです」

居酒屋での経験が、次の仕事につながったんですね。

「そうなんです。合宿生たちは御浜町で過ごします。校長先生は手づくりの料理で迎えたいと考えていたそうです」

でも、どうして教習指導員の仕事をはじめることに？

「校長先生に、再び声をかけてもらったんです。『合宿を受け入れる時期に、教習指導員の仕事をしてみませんか』と。合宿が行われるのは、8～9月と12～3月。ちょうどみかん農家の仕事が落ち着く時期なんですよ！」



教習指導員とみかん農家は、かけもちの相性がバツグンだったんですね！

大人も日々進化系！はたらき方にゴールはない。

崎久保さんは、以前から今のようなはたらき方を目指していたんですか？

「いえいえ！気づいたら、4つの仕事をかけもちしていました(笑)」

最初からゴールが見えていたわけじゃない。好きなことを続けて、目の前の仕事に一つ一つ取り組んだ結果が今なんです。

「そうなんです。自分が、教習指導員という教える仕事に就くとは思っていませんでしたし。」

いつかはじめたい？5つ目の仕事！

現在4つの仕事に就く崎久保さん。この先もずっと、このスタイルではたらいていくのでしょうか。

「そればかりはわかりませんね。正直なところ、今も考え中です。それからね。実は、夢があります。いつかゲストハウスを開きたいんです」

5つ目の仕事ということですか？！一度はたらいてからも、変化していいですね。

崎久保さんの仕事を、もう少し追いかけてみました！

教習所でも、合宿寮でも、
生徒と関わる姿は変わりません。

■ 16時、教習指導員の崎久保さん

この日は、卒業検定を間近に控えた生徒さんの教習。1コマ50分間をめいっばい使い、苦手ポイントの復習を行います。崎久保さんは「生徒さんがリラックスして教習に臨めるように、授業前には運転免許以外の話もします。たとえば、ベツトは飼ってるの、名前はなに？とか」。そう。教習指導員の仕事は、運転免許取得のサポートだけではありません。一生を無事故で終えるための、心の教育こそ大切なようです。生徒の中には「親に言われて」「就職に必要で」と、仕方なく自動車学校を訪れる人も少なくありません。そんな生徒が、運転の楽しさに気づくよう。コミュニケーションが重視されています。

■ 18時、寮管理人の崎久保さん

技能教習を終えて、スタッフルームへ向かった崎久保さん。私服に着替えて、合宿寮の、キッチンへダイブ！先にごしらえをすませた妻の真衣子さんとともに、合宿生の夕食をつくります。この日のメニューは、手羽先の唐揚げ。自家製のタレで味つけた手羽先に衣をつけて、ジュッと油の中へ。揚げたてを、合宿生みんなで食卓へ運んで「いただきまーす！」



崎久保さんがはたらく「紀伊自動車学校」について

巣立ったあとは、一生無事故でね。

紀伊自動車学校は熊野地方で唯一、大型自動二輪免許を取得できる自動車学校です。すべての車種を合計すると、毎年約700人の免許取得をサポートしています。普通自動車運転免許を取得する生徒の大半は20歳前後。卒業生たちは、その後約50年間、自動車を運転します。一生無事故に過ごせるように、責任感のある仕事なのだとか！

合宿生に、まちの魅力をバスツアーで紹介。

紀伊自動車学校の合宿寮は、けっしてアクセスのよい場所ではありません。夜になれば、あたりは真っ暗。最寄りのコンビニまで徒歩30分！はじめての環境に、合宿生たちは、戸惑うこともあるとか。けれども、紀伊自動車学校の合宿プランでは、熊野地方をめぐるバスツアーを実施します。合宿が終わるころには、御浜町を好きに。卒業生の中には、免許取得後に、自分で車を運転して、訪ねてくる人もいます！

取材先情報

紀伊自動車学校

〒519-5202 三重県南牟婁郡御浜町下市木 942

電話 05979-2-1073

WEB <http://kiids.jp/>



ヒント4

思いがけない仕事に
就いてみたら

Kii Person

ばん きん きた もと かつ や
板金職人 北本勝也さん

下川建築板金



Q.4 やりたかった仕事と、就いた仕事を教えてください。

「アパレルから職人へ。人生間違えたと思ったわ(笑)」

まったくのゼロから職人の道へ。

北本さん(39)の仕事は、建物の屋根をつくる「建築板金」です。手がける屋根は住宅のリフォーム、新築の工場、はたまた世界遺産の熊野速玉大社まで。ところが、20歳のころはまったく違う道を考えていました。

「名古屋で、ファッションの起業を考えていたんです。きっかけは、下川建築板金に生まれた妻との出会いでした。『実家のある御浜町へ帰りたい』と言われたんです」

なるほど!愛する妻のためなんて、かっこいいなあ。

「いやいや!究極の選択だったよ!!」

板金の仕事を始めて、どうでしたか?

「それがさ、やりだしてから自分の不器用さに気づいたんですよ。屋根って、一軒一軒仕上げを変えます。でも、その加減がわからない。毎日お義父さんの横で仕事を見ても、全部同じに見える。これは人生間違えた、と思ったわ(笑)」

仕事は、その仕組みがわかった日から面白くなる。

「人生間違えた」と思ったのに、どうして続けたんですか?

「逃げられなかったのもあるけれど(笑)、お義父さんが言うんです。『霧が晴れる日が必ず来るから、それまで続けてごら

ん』って。最初は信じられなかったよ。ところが5年目を迎えた朝、ほんとうに霧が晴れました」

ん?!一体どういうことですか?

「屋根の仕組みがわかってきたんです。一度わかりだすと、この仕事はむっちゃ面白くて」

正解がないから、続けていける。

今も面白いですか?

「面白い。手を加えた分だけ、屋根はよくなります。時間のゆるす限り、板金をトンカントンカン叩き続けたい。仕事の終わりが無い上に、人それぞれの叩きかた、曲げかた、整えかたがあります。正解がないから、続けていけるんです」



北本さんの仕事を、もう少し追いかけてみました!

職人という仕事を、選択肢の一つに。

5年も待てない!

「未経験OK」「不器用OK」の教育スタイル。

北本さんは、お義父さんから「見て覚える」スタイルで仕事を学びました。

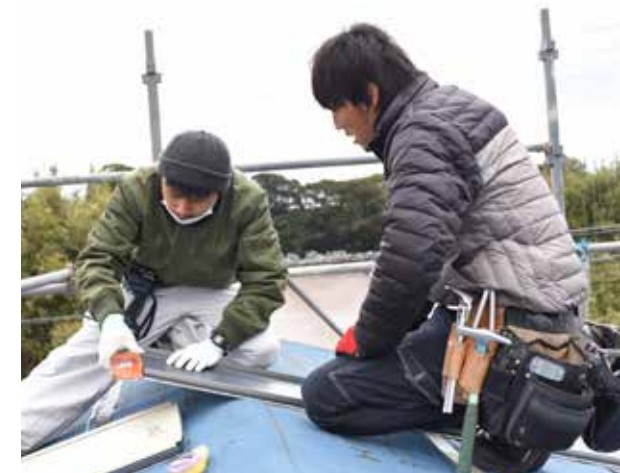
「いくら楽しい時期が来るとはいえ、5年間も修行の時期があるのはつらいよね。仕事には『見て覚える』部分が必ずあります。でも、できるだけ言葉で教えていきたいな」
迎え入れてくれる気持ちがあることで、安心して飛び込めそうです。

同じ仕事は2度とない。1軒1軒が真剣勝負!

一つの仕事を続けていくコツを聞きました。

「人を好きになること、人に感謝することかな。どんな仕事も、慣れとの闘いは必ずあると思います。そこに向かい合う気持ちが大変。一戸建ての家も、ちょっとしたリフォームも、お客さんにとっては、一生に一度の一大決心かもしれない。そんな大切なものを、うちを選んで、託してくれてありがとう。その気持ちを忘れないことです」

仕事には、大きいも小さいもない。目の前の人に応えることが、大切なんですね。



北本さんが散りばめられたWEBサイト!

もっと知りたい人は、ぜひ見てみて。

あらゆるところに北本さんが散りばめられた(笑)、ユニークなサイトです。特に見てほしいページは「下川建築板金の想い」。北本さんが板金職人になるまでの詳しい情報が載っています。あわせて「しかもかわ板金の北本よめブログ」もぜひ。



取材先情報

下川建築板金

〒519-5204 三重県南牟婁郡御浜町阿田和 5149-1

電話 05979-2-1982

Web <http://www.shimokawabankin.jp/>





ANOTHER STORY 1

Q 自分に向く仕事がありません。
「向いているから仕事にするのが、すべてじゃないと思う」

向いていないから、 できることもある

インタビューの中で「僕は多分、職人向きじゃないんだと思う」と何度か口にした北本さん。

「そういうヤツでも、続けていれば一人前になれるのが建築の仕事だと思う。もちろん、器用な人よりは時間がかかるかもしれないけど… 今になって思えば、自分が「異分子」だからできることがあるな、って。たとえば、自分がこの仕事をわからなかった分、“わかりやすい言葉”で人に教えていけると思う。むしろ向いていないからこそ、板金屋の仕事の可能性をぐんと広げられるんじゃないかな」

■ アクシデントは、面白くなるための刺激

思いがけない出来事って、実はマイナスじゃないのかも。北本さんがいう“異分子の可能性”について、面白いエピソードがあります。

「仕事で使う屋根の材料を調べていく中で、必然的に熱効率に詳しくなってる。いつもは家の屋根をつくるけれど、この熱の知識って農業にも使えるんじゃないか？って。いろいろ話していくうちに、“農業のシェアハウス”を思いついたんです。ぼくら建築チームが大きなビニールハウスを建てて、何軒かの農家さんに入居してもらい、農作物を栽培してもらう。地元の中高生にも、農業に関心のある子が多い。彼らが『カッコいい』『やってみたい』と思う環境をつくるのが、建築の仕事なんです」



ANOTHER STORY 2

Q もし、やりたい仕事に就けなかったらどうしよう？不安です。
「その仕事をやり続けたら、案外やりたいことにつながるかもね」

■ 板金職人は、まちづくり職人

北本さんがつくるのは、屋根だけでしょうか？これから病院に関われば「医療」に、学校に関われば「教育」につながるのかもしれませんが。みなさんは「地元には就きたい仕事がない」と思うかもしれません。実は、北本さんのような人々がさまざまな領域で活躍し、新しい仕事生まれつつあります。そうした仲間が増えることが、結果としてまちを盛り上げることにもつながりそうです。このまちで高校生たちがチャレンジできる場所は、ぐっと増えるかもしれません。

■ ファッションの道は、まだ続いているのかも

世の中には、職人とコラボレーションして生まれた、すごいダウンジャケットが存在します。服の中に細い電熱線が編み込まれ、スイッチ一つで体を温めてくれるんです！そもそも洋服は、雨風を防ぎ、快適な体温を保つもの。これって、屋根と似ていませんか？ひょっとしたら、板金がファッションにつながる可能性だってあるかもしれません。

MEMO



ヒント5
地元舞台に、世界へダイブ!

Kii Person
かき うち きよ あぎ
農業経営 垣内清明さん
かきうち農園

Q.5 カッコいい仕事は、都会にしかないのかな?

「地元にもあるよ。うちは、1年目から海外行きます」

大人だけじゃない。
高校生もアレコレ考えているよね。

かきうち農園代表の垣内さん(47)は、木本高校や皇學館大学で学生と話す機会も多いそう。歳の離れた学生と話すとき、どんなことを心がけていますか。

「相手が10代でも、大人と同じように話すこと。最初は、カンタンに話そうとしたけれど、すぐに気づきました。高校生も、アレコレ考えているんだって。すごかしこいやん!」

生産、加工、販売。実は幅の広い仕事なんです。

農業には、どんな仕事がありますか?

「生産、加工、販売、事務…いろいろな仕事がありますよ。チャレンジしたい人には、試せる機会もあるんです」

たとえば販売って、なにをやるんでしょう。

「自分が育てたみかんを車へ積み込み、百貨店などでのイベントに出展します。お客さんからは色々な質問を受けますよ。『おいしいみかんの見分け方は?』『今年のできは?』」

勉強をした上で、納得のいく説明ができて、みかんを買ってもらえたら…うれしいだろうなあ。

「あとは“マーケティング”という仕事もあります。ファッショ

ンと同じように、みかんにも流行りがあるんです。今後求められる品種を調査して戦略を立てるのも、農業の仕事なんです

ときには海外へ。仕事で、社会人をつけて。

みかんの流行りについて、教えてください。

「日本のみかんは、海外でも人気ですよ。マレーシアから『セミノールを購入したい』と注文をもらったり、パリへ渡った豆腐職人から『みかんジュースを取り寄せてみたい』と連絡があったり!若手社員にも、海外へチャレンジしてもらえたら。過去には、1年目の新入社員がマレーシアの商談会へ出張しました」

学ぶことが、たくさんありそうです。

「営業力はもちろんのこと。航空券を購入して、ホテルを予約して、現地でのスケジュールを計画する。社会人として欠かせない段取り力も、身につくと思います」

どうして、チャレンジの機会がたくさんあるんですか?

「大企業でも通用する社会人に成長してほしいんです」



かきうち農園の仕事を、もう少し追いかけてみました!

紀南高校OBの江川さん、
IT企業から転職した守屋さん。
そしてこれからのみかん農家とは。

合う?合わない?を、はたらき始めて見つけた2人

紀南高校OBの江川大祐さん(33)。かきうち農園ではたらき、8年目です。「20代は、工場で機械部品をつくる仕事をはじめ、さまざまな職場ではたらきました。僕には、室内よりも、外で体を動かす仕事に向いていたんです」
守屋祐紀さん(25)は、岐阜県の出身です。ものを開発することが好きで、名古屋工業大学へ。卒業後は、IT企業へ就職しました。「僕も就職して見つけたことがあります。好きだと思っていた“開発”が、仕事としては合わなかったんです。農業の仕事に就きたくて、御浜町へ来ました」

はたらくヒントは、部活にあるかも?

あなたがもしバレーボール部だったら。練習を重ねて、レシーブやスパイクが上達すると、チームが強くなりますよね。実は、職場も同じなんです。一人一人が生き生きはたらくことで、会社が強くなります。会社が強くなると、新しい仕事が生れます。かきうち農園では、みかんの加工品開発がはじまりました。売り上げアップが得意な営業タイプ、毎日コツコツ畑で育てる生産タイプ、新商品をつくる開発タイプ…あなたは、どんなポジションを見つけますか?



「かきうち農園」について

とにかく広い!畑が全国平均の20倍!

かきうち農園では、12ヘクタールの農地を管理しています。これ、全国的に見ても大きいんです!(みかん農家の全国平均は、0.6ヘクタール)。効率よくはたらけるよう、機械を積極的に導入しています。消毒作業を行う“スピードスプレーヤー”は、700万円以上するのだから!

でも垣内さん、そんなにお金をかけて、大丈夫ですか?

「いや、むしろ足りてへん(笑)」

なりたい職業に「農業」が入る日まで。

聞けば、みかんの生産量は年々減り続けているそうです。全国には家族経営のみかん農家の多い中、垣内さんは、どうして会社を立ち上げたのですか?

「まちに安定した職場をつくりたいからです。『農業やりたい』って子が次々現れるためにも、農業を憧れの職業にしたい。まずはきちんとお金が稼げること。そして、はたらくことで人間的に成長し、どんどんその先へ羽ばたいていける仕事にしたいです」

取材先情報

株式会社かきうち農園 あたら
〒519-5204 三重県南牟婁郡御浜町阿田和 4678
電話 05979-3-0143
WEB <https://www.kakiuchinouen.com/>





ヒント6
**作れるって、
 うれしいことだよ**

Kii Person
 みなと けん いち ろう
石材店経営 湊賢一郎さん
 湊石材店

Q.6 学校の勉強が嫌い。成績悪い。一生勉強が嫌いなのかな？
「作れる技術を身につけない？僕は今、たくさん勉強しています」

はたらきながら、勉強が楽しくなりました。

石材職人の仕事は、石から墓石やコマイヌなどをつくること。湊さん(42)は、この仕事について、勉強するようになったといいます。

「紀南高校では、学校の勉強が好きにはありませんでした。でも、就職してからは石の勉強を日々楽しんでます。高校卒業後は、香川県で修行。今も石を磨く技術をアップデートしたり、石の産地を訪ねて石の知識を深めています」

机に座って、教科書を暗記するだけが勉強じゃないんですね。でも、どうして大人が勉強するの？

「知識が増えて、できることが広がると、仕事がより楽しくなる。だから、今は二十歳のころよりも楽しめています」

遊びが、やがて仕事につながります。

湊石材店には、いろいろな石のモニュメントが並びます。愛犬、シーサー、iPhoneまで！これらも商品ですか？

「遊びですよ。せっかく技術があるから、作りたくて。こうした作品が、仕事につながることもあるんですよ」

遊びが仕事に？

「御浜町役場からの依頼で、七里御浜のふれあいパークにハート型のモニュメントを設置しました。これは、父が空き時間にコツコツとつくったものなんです」

なるほど。とても手間がかかるから、依頼を受けてからでは制作が間に合わないんですね。

ものづくりの仕事は、まちにずっと残ります。

湊さんは、石が大好きだから、石材職人になったんですか？

「いやいや、特別石が大好きだったわけじゃない(笑)。楽しむにはたらく家族を見ていたからです。石は人よりも長生きなので、父やおじいちゃんがつくったものが、まちじゅうにあるんです」

そうか！墓石だって、何代にもわたって使われますね。

「お墓は、人が最後に住まう家。今作ったものは、僕よりも長生きします」



ANOTHER STORY

実は、あれもこれも湊石材店さん！
 まちに息づく作品の数々、ぜひ見つけてみて。



湊さんがはたらく「湊石材店」について

後継ぎ、募集中！？

湊さんは、湊石材店の3代目です。4代目はいますか？
 「いないんだよ！僕はまだまだ元気だけれど、今のうちから、考えたいんです」
 もしも後を継ぎたい人がいたら？
 「みなさんと僕は、年齢が違います。石材職人としての技術は教えていきますが、逆にみなさんからも、考えていることや感覚を学びたいです」

人の暮らしが変われば、仕事も更新される。

石材店の仕事自体も、大きく変わりつつあるそうです。
 「お墓やコマイヌなどを作る仕事が減っています。一方で墓じまいの仕事が増えています」
 遠方へと引っ越した家族から、お寺へ相談を受けるそうです。そこで湊さんは、新たな仕事を考えているそう！
 「今後は、家族に代わってお墓を手入れする“墓守り”が必要になりそうです。変わるときなのかな、と思ってね」



湊石材店さんの仕事を、もう少し追いかけてみました！

一度は生で見てほしい。
お墓を作るカッコいい職人仕事。

「高校卒業後？なにも考えてなかったんですよ。
勉強ができませんでした」

そう話すのは植村さん(35)。紀南高校卒業後は、大阪市の鉄工所へ就職。23歳で地元へ帰り、湊石材店ではたらきはじめました。石材職人となって、12年。「振り返ると、小学生のころから、図工が好きでした」という植村さん。口数は少なくも、今では湊石材店の石材加工を一任されるキイ・パーソンです。



うえむらみつ のり
石材職人 植村光教さん
湊石材店

1		4
2	3	5 6

1. 「水鉢」に溝を引く
2. ハンマーで溝を砕く
3. ザラザラの表面を7種類の石で磨く
4. 表面にチョークで線を引き…
5. 水磨きで仕上げる
6. 最後に、表面のツヤを確かめる



工場は神志山駅前
電車の窓からのぞいて見てね。

取材先情報

湊石材店

〒519-5202 三重県南牟婁郡御浜町志原 しはら 2005-22

電話 05979-2-4383

WEB <https://www.facebook.com/isinoueni1show/>



ヒント7

ええやん、きみの地元

Kii Person

たか おか ひろし

指導農業士 高岡洋さん

農家育成

ムリしたら
マケですよ。



Q.7 ここには、何も無いと思う。

「ここ目指してやってくる人もいるんだよ」

先生 高岡 洋さん

耕作面積: 2ヘクタール / 栽培品種: みかん5種類 / 農家歴: 22年目

「収穫用に木を低くしているから、かくれんぼにちょうどよかった」「下に落ちた実を、つぶして遊んだな〜」。農地の77%をみかん畑が占める御浜町。みかん畑を訪ねると、思い出話が聞こえます。けれど、身近な仕事とは言いきれません。「みかん農家って面白いんだよ」と話すのは、指導農業士の高岡先生(54)です。

はたらくコツは、ムリせず続けること。

システムエンジニアの仕事を経て、みかん農家を継いだ高岡さん。農業で稼ぐには、毎日朝から晩まではたらくのでは？

「いやいや、ムリしたら負けですよ。真夏に、1日中畑へ出たら、熱中症になります。疲れたままだと、ケガもしやすいです」

ムリしないためには、タイミングをつかもう。

では、たくさんのお仕事をどうこなせばよいのでしょうか？



「できるだけ効率よく動くこと！まずは“仕事相手”をよく知ることです。みかんの木は、毎年どんどん上へ横へと伸びるクセがあります。木が広がると、作業に時間がかかる上、みかんの品質も落ちます。だから、あらかじめ枝を切っておくんです」

ふむ！タイミングが大事ということですね。どんな仕事にもあてはまりますし、ひょっとしたら、高校での勉強にも活かせるヒントかも？

続けて、教え子のみなさんに話を聞きました！

教え子 仲井 照清さん

耕作面積: 0.9ヘクタール / 栽培品種: みかん5種類 / 農家歴: 4年目



自営業って、
自分を営むこと。

たくさん貯金がなくても、
農業を始める方法はある。

収穫までに、約5年間かかると言われるみかん。農業を始めるには、たくさん貯金が必要？「そうとは限らないよ！」と、仲井さん。御浜町へ来て、高岡先生のもとで1年間の研修を受けました。その後、すぐに収穫できる畑を借りられたそうです。仕事

道具も揃っていたのだとか！

「自分を営む」と書いて、自営業。

仲井さんは以前、大手物流会社に勤めていました。次の仕事として、農林水産業を自分で営みたいと考えました。

「僕の場合は、1000万円売り上げなくてもいい。自分の時間を大切にしつつ、たまにはゼイタクができる暮らしがしたい」

5種類のみかんの木をお世話しつつ、徒歩5分の海で気分転換。月に1度は、軽トラから普通車に乗り換えて、大阪へ遊びに出ます。仲井さんにとって、今の仕事はどうでしょうか？

「もともと、決まった作業を続けることが苦手で、新しいことが好きなんです。畑は毎日の変化に驚かされて面白いです」

「風邪ひくなよ〜！」農家はまるで学校の先生。

同じ年に植えたみかんでも、育ちかたはそれぞれ。みかん畑を歩く仲井さんは、さながら学校の先生のように話します。

「花のつきかたが違えば、身長も倍ほど変わります。中には、風邪をひきやすい子もいるんだよ」

教え子 福田 大輔さん

耕作面積: 研修中 / 農家歴: 1年目



雲の影眺めながら、
1000万円目指したい。

仕事場を海から山へ、
元潜水士の初心者みかん農家。

「雲の影が山に浮かぶんです。それを眺めるのが好きで」。

そう話す福田さんは、元・潜水士！はたらく現場が海だった福田さん。小さな畑で家庭菜園を営むうち、もっと広々と農業がしたいと思うように。一家3人で、三重県へ引っ越ししました。

「もともとオーガニックな野菜農家を考えていたんです。けれども熊野地方に住み始めて、しっかり稼ぐみかん農家たちに出会いました。農業のイメージが大きく変わったし、どうやら空き畑が年々増えている。みかんはチャンスだと思いました」。

そんな福田さんの目標は、1000万円売り上げのみかん農家！

「サラリーマン時代には、知らなかった世界でした！」

潜水士時代には出会うことのなかった人たちや経験に囲まれながら、福田さんは今一歩、山を泳ぎ始めたところです。

取材先情報

三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト

〒519-5203 三重県南牟婁郡御浜町大字下町本 2281-23

集荷場内プレハブ2階

電話 05979-3-1707

WEB <http://www.ztv.ne.jp/web/mikanproject/>



「僕のまわりには、面白い大人がいません」

2016年に東京から引っ越してきた僕は、KiiというWEBサイトを立ち上げ、紀伊半島(三重・奈良・和歌山県)の仕事を紹介しています。中国生まれの父と東京生まれの母をもつ僕にとって、紀伊半島は縁もゆかりもない地でした。だからこそ、面白く映ったのかもしれませんが。

2017年の夏。奈良県桜井市で、一人の高校生が「まわりに、面白い大人がいません」と話してくれました。Kiiの活動を独り占めするのはもったいないと思い、彼と面白い大人を訪ねる旅に出ました。ただ一つのルールは、地元であること。その記録は「高校生よ、はたらいてもいいんだよ。」というコラムになりました。

人口3万人の地方都市から、100人が暮らす集落までを彼と歩きながら「面白い大人って、誰のことだろう」と考えていました。

かつて僕は「メディアに登場する有名な人」だと思っていました。活動する人も、紹介するメディアも、東京や大阪に集中するから紹介されやすいためです。でもほんとうは、どのまちにもいます。今回は、三重県御浜町で「はたらく」をテーマに本を書かせていただきました。

本誌制作にあたり、たくさんの方にご協力をいただきました。まことにありがとうございます。

2018年11月22日

大越元(おおこし はじめ)

1985年東京生まれ、高校中退後、大検取得。早稲田大学卒業後、大手メーカー勤務を経てライターに。2015年、紀伊半島へ。

紀伊半島の仕事紹介Kii編集長 kii3.com

10代のシェアスペースToi共同運営者



最後に、御浜町でチャレンジする2人を紹介します。東京での就職を経て、和歌山県新宮市へUターン。御浜ローカルラボを立ち上げた前田裕輔さん。彼の動きを受けて、銀行を退職。尾呂志地区へUターンした辻本恵さん。御浜町で暮らしたい人が増える「移住定住」に取り組んでいます。高校生のみなさん、学校関係者・保護者の方々、企業の方々、そしてこの本を、東京や大阪で手に取ったあなた。機会があれば訪ねてみてください。

お問い合わせ

御浜ローカルラボ 移住・交流サポートデスク
(一般社団法人ここテラス)

〒519-5322 三重県南牟婁郡御浜町上野26
(旧尾呂志保育所)

電話 05979-9-1654

info@kokoterrace.com

WEB <http://mihama-iju.com>

